

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	全員協議会	場 所	全員協議会室
		担当職員	阿久根由美子
日 時	平成25年11月15日（金曜日） 開議 午後2時30分 閉議 午後3時40分		
出 席 議 員	議員 25名 （小島議員欠席）		
執行機関出席者	勝見副市長、小川健康福祉部長、広瀬子育て支援課長		
事務局出席者	今西局長、藤村次長、阿久根副課長、坂田主任		
傍 聴	☒ ・否	市民0名	報道関係者0名

会 議 の 概 要

14：30

1 開議

〔木曾議長 開議〕

〔事務局長 日程説明〕

〔健康福祉部 入室〕

2 公立保育所再編整備について

〔健康福祉部 説明〕

経過は、

- ・22年3月亀岡市就学前保育検討委員会で公立保育所と幼稚園の在り方に係って取り組むべき課題を検討され、亀岡市就学前保育のあり方について建議が提出された。
- ・保育所は具体でなかったが就学前の健全育成と子育て支援の観点から今後の公立保育所の在り方、役割、再編整備の具体的検討を始める。
- ・22年6月～24年2月、有識者、市民等からなる亀岡市公立保育所再編整備検討会議で検討ののち答申が出された。
- ・答申では、
 - ①児童数が少ない、4、5歳児のクラス10人に満たない。
 - ②将来的に子ども人口増加見込みが低い。
 - ③保育環境の改善が困難。

④他の保育所の受け入れ可能。

が整備要件とされた（対象保育所は明記されていない）。

- ・ 庁内関係課長会議で約 1 年かけ素案をまとめる。

〔以降資料のとおり〕

整備要件の保育所を対象に検討した結果、

- ・ 周辺地域の中学校区域に 1 保育所又は子育て支援施設が必要。
- ・ 8 保育所を 6 保育所に。
- ・ 本梅保育所と東本梅保育所を統合し西部地域に新保育所建設。
- ・ 別院保育所は現施設の耐震性が低く危険溪流地域の隣接により閉鎖。0～2 歳児は子育て支援センター、3～5 歳児は中部保育所へ。
- ・ 保津保育所は児童減少、施設老朽化、保育スペース狭隘から第六保育所と統合。
- ・ 実施時期は明記せず。
- ・ 緊急性の高いところから整備する。
- ・ 地元との協議をしながら進める。

1 4 : 4 5

〔質 疑〕

<西口議員>

地元の理解の状況は。

<健康福祉部長>

東別院自治会長は存続、西別院自治会長は大阪の入り口を見捨てるのかの意見があった。市は土砂崩れの危険がある、新保育所建設は難しい状況で今の公的施設のなかで考えたいと伝えた。保護者会から中部保育所を見に行かれ提案もいただいている。

保津保育所に関しては、地元でまちづくりを考え進めているなか、逆なでする提案だと言われた。今までは保津保育所を閉鎖としていたが、第六保育所も耐用年数が過ぎ老朽化しており、両保育所を統合し新保育所を建設する。場所も考えることとした。

<西口議員>

あと 4 年で廃止になる、今から他の保育所に入れないといけないと地元ではうわさが広まっている状況である。自治会等全ての団体が計画に反対している。地元としっかり協議し、理解を求めてもらいたい。地元の不安な状況をどう考えているのか。

<健康福祉部長>

保津保育所が 4 年で廃止とは一言も言っていない。何時からは明言できない。27 年度までは学校の耐震化を優先している。地元の自治会へ訂正の提案を文書でして

いる。

<西口議員>

柔軟に対応するとのことである。地元の要望は十分聞いてほしい。

<健康福祉部長>

計画を白紙にはできないが、例えば別院保育所なら、いったん移転し規模の基準に照らし検討するなどの柔軟な対応を考えている。

<山本議員>

別院保育所の緊急性についての考えは。

<健康福祉部長>

早く合意形成を図り着手したい思いはある。

<山本議員>

保護者や自治会など反対が多い。子どもの姿を消したくないという思いで、地元の公共施設でどうかという意見もあるが可能性はあるのか。

<健康福祉部長>

それも踏まえて検討したい。一方、保護者が中部保育所を見に行かれ、「いいところ」「ここで保育してほしい」という意見もあるところである。

<山本議員>

保護者はできるだけ地元の保育所を望んでいる。

<健康福祉部長>

十分にご意見を聞き内部協議し計画に反映したい。

<立花議員>

前部長が話していた公立の認定こども園を中部地域か西部地域に建設するという計画は今も生きているのか。

<健康福祉部長>

本梅保育所と東本梅保育所は4、5歳児で10人のクラス確保が難しい状況で、同一の中学校区であり統合を計画している。現施設の老朽化により新たな場所で西部地域に子育て支援センターを計画、西部地域に幼稚園はなく認定こども園の方向性も考えている。

<立花議員>

パブリックコメント募集の内容は。

<健康福祉部長>

地元調整と整合したものでしたい。

<立花議員>

パブコメの日程は。

<健康福祉部長>

年度内にできればと思う。パブコメ募集するには、地元の方にやむを得ないと思っ
てもらえる状況まで持っていけないといけない。

<苗村議員>

環境厚生常任委員会ではまちづくりでの視点で取り組むとのことであった。周辺部
は子供が減っている。総合計画に沿っていない。まちづくりの観点で話し合いが出
来ていない。

<健康福祉部長>

そういう意味で子育て相談が出来る施設が必要で子育て支援センターの建設を考
えている。相談、支援は民間ではできない。まちづくりを考えていない計画ではな
い。

<吉田議員>

子ども福祉ではなくまちづくりの問題である。調整区域で家が建たない、人口を減
らす施策をしてきて、子どもが減ってきたから保育所なくすでは納得できないと思
う。集団保育は必要で一定の保育をするには人数は必要だと思う。行政として人口
を減らないうしたのかという思いが地元には強いと思う。まちづくりの観点で考
えていけないといけない。地元よりは子どもの観点で考えるべきではあると思うが、
見解は。

<勝見副市長>

定例会一般質問での指摘もあったところ。問題提起されたところは十分検討する。

<吉田委員>

計画案を出す前段階でまちづくりの検討をしっかりとってほしい。

<馬場議員>

施設の老朽化、児童の減少により閉鎖ではなく、発想を変え、どうやって保育所を
存続させるかを検討願う。

<勝見副市長>

その指摘を受け止める。

<馬場議員>

次は学校の統廃合に及ぶ。まちづくりは衰退する。振興策は。

<勝見副市長>

学校規模の適正化は検討しているところで、議論していく。

<藤本議員>

合意が得られていない。地元の思いになっていない。検討委員会で決まったからや
るのではなく、一つひとつ地元の理解を得るべきである。

<勝見副市長>

検討会議の提言により検討されてきたもの。議会の意見により、地元の意見を伺うためこの半年は地元の説明してきた。市民全体の意見も聞きながら合意に至らない部分は修正を加え進めたい。

<日高議員>

畑野町で説明は聞いたが、具体でないと思っていた。27年度の耐震化が済めば着手するなら、もっと計画的に具体案を示すべき。

<健康福祉部長>

計画は方向性を明らかにしている。緊急性高く早期にしても3～4年先になる。危険度の高いところから進めたい。

<酒井議員>

ファシリティマネジメントに先駆けたもの。利害関係者の意見を聞くことは必要であるが、全ての要望には応えられない。利害関係者以外の市民にも考えてもらいたい。市民全体の問題、計画であるという基本にブレがないようにしてもらいたい。

<堤議員>

うわさが広がることはよくある。不安が広がらないようしっかり説明し、やってもらいたい。

<健康福祉部長>

その気持ちをもってやっていく。

<西口議員>

強引でなく柔軟に進めてもらいたい。地元の合意形成に努力願う。

<健康福祉部長>

統廃合という言葉に地元は不安を感じられている。痛みに寄り添い話し合っていきたい。

<中澤議員>

ぎりぎりの提案で、市民も理解されると思う。合意は大事で、要望に応えられるよう検討のうえ説明する必要がある。

<健康福祉部長>

答申から検討しているもの。地元の意見を聞いていきながら検討していきたい。

〔健康福祉部 退室〕

15：38

3 その他

〔事務局長 会議予定報告〕

15：40